

基本的方向1 子どもの姿



目 標

自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

未来へ向かって成長し、未来を担う子どもに、これからの社会をよりよく生きていく力を育むことは、とても重要なことです。

将来の予測が明確にならない現在の社会にあっては、自らの生涯を切り拓く力強さと、他人と協働してよりよい社会を築こうとする頼もしさが必要です。このため、強い意志をもって主体的に考え行動する力と、他と協調しつつともに社会を支える力を育み、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てます。

《施策一覧》

| | | |
|-------|---------------------------------|----------|
| 1-1 | 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを養い、豊かな心を育む | P. 8-13 |
| 1-1-1 | 人と関わる力を身に付ける活動の充実 | P. 9 |
| 1-1-2 | 命を大切にする教育の推進 | P. 10 |
| 1-1-3 | 道徳教育の充実 | P. 11 |
| 1-1-4 | 体験活動の充実 | P. 12 |
| 1-1-5 | 読書教育の推進 | P. 13 |
| 1-2 | 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、活用する力を育成する | P. 14-16 |
| 1-2-1 | 確かな学力を育成する取り組みの推進 | P. 15 |
| 1-3 | 健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する | P. 17-21 |
| 1-3-1 | 望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進 | P. 18 |
| 1-3-2 | 食育の推進 | P. 19 |
| 1-3-3 | 体力向上の取り組みの推進 | P. 20 |
| 1-4 | 社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む | P. 22-27 |
| 1-4-1 | 環境学習の充実 | P. 23 |
| 1-4-2 | 情報教育の推進 | P. 24 |
| 1-4-3 | キャリア教育の推進 | P. 25 |
| 1-4-4 | 防災教育の推進 | P. 26 |
| 1-5 | 日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際社会の中で生きる力を育む | P. 28-31 |
| 1-5-1 | 歴史や文化に関する教育の推進 | P. 29 |
| 1-5-2 | 外国語教育・国際理解教育の推進 | P. 31 |

◇施策の方向 1-1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを養い、豊かな心を育む

○ 重点事業の点検

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | 創意と活力のある学校づくり事業 |
| 事業概要 | 豊かな心を育てるために、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む学校づくりを支援する。 |
| 計画 (具体的な取り組み) | 「市川の学校教育三カ年計画」を基に、豊かな心の教育を推進する。道徳教育、いじめ根絶の取り組み、ブロック連携によるあいさつ運動等の拡充を図る。 |
| 実績 (活動及び効果) | 学校評価の指標を基に学校が取り組みを行い、「豊かな心」を育む教育を推進した。 中学校ブロックの取り組みについては、現行の取り組みに加え、幼稚園や高校との連携についても拡充が図られた。 |
| 進捗 | A |

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | 学校図書館支援センター事業 |
| 事業概要 | 学校図書館を支援するスタッフを学校に派遣するとともに、学校図書館及び公共図書館の図書資料を共有して利用する情報・物流ネットワークを運営し、学校図書館機能の充実を図る。 |
| 計画 (具体的な取り組み) | 公共図書館及び幼小中特別支援学校との連携をいっそう推進し、研修等を通して学校図書館の充実を図っていく。 |
| 実績 (活動及び効果) | 今年度も文部科学省の研究委託を受け、公共図書館及び幼小中特別支援学校との連携を深めた。 研究協力校による実践事例を研究紀要にまとめて、全校に配付することで読書教育の推進を図った。 |
| 進捗 | A |

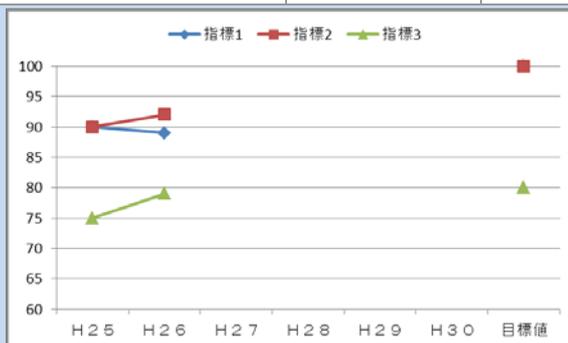
1-1-1 人と関わる力を身に付ける活動の充実

人と関わる力を身に付け、望ましい人間関係をつくるために、学校生活や地域活動などを通して、相手の話をよく聞いたり、自分の思いを相手に伝えたりして、たがいの価値観を認め合う力を育成します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標 (H30) |
|------|----------------------------------|-----|-----|----------|
| 1 | 「進んで挨拶をする」と回答する児童生徒の割合 | 90% | 89% | 100% |
| 2 | 「人の話や考えをよく聞くことができる」と回答する児童生徒の割合 | 90% | 92% | 100% |
| 3 | 「自分の考えや思いを伝えることができる」と回答する児童生徒の割合 | 75% | 79% | 80% |



2. 施策の現状・課題

成果指標がおおむね向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|---|
| 創意と活力のある学校づくり事業 (市川の学校教育三カ年計画の推進) | 豊かな心を育てるために、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む学校づくりを支援する。 |
| 青少年指導者育成事業 | 小学生、中学生、高校生及び大人向けの青少年指導者育成講習会を開催し、青少年指導者を育成することで、地域の青少年育成活動の活性化を図る。 |

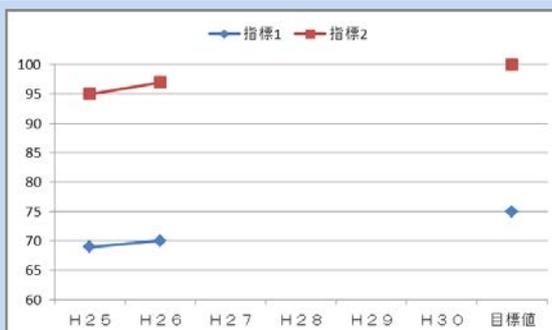
1-1-2 命を大切にせる教育の推進

自分の命はもちろん、他人の命も大切にせる意識を育みます。また、自分の良いところをたくさん見つけ、それを伸ばしていくことで、自分がかげがえのない存在と認めることのできる教育を進めます。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|--------------------------------------|-----|-----|---------|
| 1 | 「自分には良いところがある」と回答する児童生徒の割合 | 69% | 70% | 75% |
| 2 | 「友だちや動植物を大切にせる気持ちをもっている」と回答する児童生徒の割合 | 95% | 97% | 100% |



2. 施策の現状・課題

成果指標が向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|---|
| 創意と活力のある学校づくり事業 (市川の学校教育三カ年計画の推進) | 豊かな心を育てるために、命を大切にせる教育や自己肯定感を高める教育を重視した学校づくりを支援する。 |
| 薬物乱用防止の取り組み (健康教育) | 薬物乱用を防止するために、薬物の恐ろしさを正しく理解し、薬物に関する正しい知識を身に付けることができるよう、薬物乱用防止教室などの充実を図る。 |

1-1-3 道徳教育の充実

道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うため、「道徳の時間」を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図ります。また、人権意識を高め、いじめを許さない心を育成します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|-------------------------|------|------|---------|
| 1 | 家庭・地域と協力して道徳教育を進めた学校の割合 | 80% | 78% | 90% |
| | 授業公開 | 98% | 100% | 100% |
| 2 | 学校におけるいじめの認知件数 | 560件 | 283件 | 390件 |

| 年度 | 指標1(授業公開) | 指標1(人材活用) |
|---------|-----------|-----------|
| H25 | 80% | 98% |
| H26 | 78% | 100% |
| 目標(H30) | 90% | - |

| 年度 | 指標2 |
|---------|------|
| H25 | 560件 |
| H26 | 283件 |
| 目標(H30) | 390件 |

2. 施策の現状・課題

重点事業（創意と活力のある学校づくり事業）の進捗が良く、成果指標もおおむね向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|--|
| 創意と活力のある学校づくり事業 （市川の学校教育三ヵ年計画の推進） | 豊かな心を育てるために、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む学校づくりを支援する。 |
| 学校支援実践講座事業 | いじめ問題をテーマとした社会人権講座を行うとともに、受講者が地域支援者となり、小中学生との交流会を実施し、学校が行ういじめ未然防止の取り組みを支援する。 |

1-1-4 体験活動の充実

学校や地域社会において、異年齢の子どもとの交流、ボランティア、福祉体験活動、集団宿泊活動、自然体験活動、文化芸術体験活動など体験活動の充実を図ります。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|--|--------------|---------|---------|
| 1 | 少年自然の家利用者数 | 15,199人 | 16,141人 | 17,000人 |
| 2 | 「コミュニティクラブの活動を楽しむことができた」と回答するコミュニティクラブ体験活動参加者の割合 | 99% | 95% | 95% |
| | | 93% (H24) | | |

指標1

指標2

2. 施策の現状・課題

成果指標は、一部低下しているが、目標値を達成していることから、施策の実現が図られてきている。

ただし、コミュニティクラブについては、参加者の満足度が低下傾向にあることが課題である。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図るが、今後もコミュニティクラブ参加者の満足度が低下する場合には、その原因を把握し、施策の改善を検討する。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|---|
| 創意と活力のある学校づくり事業 (市川の学校教育三ヵ年計画の推進) | 豊かな心を育てるために、体験活動を重視した学校づくりを支援する。 |
| コミュニティクラブ事業 | 地域性を生かしながら「遊び」を通して、子どもたちが主体的に関わるさまざまな体験活動や豊かな対人関係を築いていくために、異年齢交流・世代間交流を図る事業を実施する。 |
| 体験学習事業 (農業体験) | 市内にある親子ふれあい農園を活用して、稲作体験や畑作体験の機会を提供する。 |
| 野外活動 | 少年自然の家を利用する団体が行う野外活動を支援するとともに、野外活動を含む行事を主催して、野外体験活動を推進する。 |

1-1-5 読書教育の推進

豊かな心を育むために、読書コミュニティをはじめとする、多様な読書活動や学習活動での図書の活用など、幼児期からの読書教育を推進します。また、図書館の役割が重要であることから、図書館資料の整備、学校図書館相互や公共図書館とのネットワークの積極的な活用など、図書館機能の充実を図ります。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|-------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 | 「読書が好き」と回答する児童生徒の割合 | 77% | 78% | 85% |
| 2 | 学習活動などで、学校図書館を利用した授業時間数 | 40,009 時間 | 45,165 時間 | 42,000 時間 |

指標1

指標2

2. 施策の現状・課題

重点事業（学校図書館支援センター事業）の進捗が良く、成果指標も向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

今後は、現在の計画に沿って施策の推進を図るとともに、読書に対する関心意欲を育む指導のいっそうの充実を図るため、興味が持てる蔵書の充実に努める。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|---|
| 学校図書館支援センター事業 | 学校図書館を支援するスタッフを学校に派遣するとともに、学校図書館及び公共図書館の図書資料を共有して利用する情報・物流ネットワークを運営し、学校図書館機能の充実を図る。 |
| 創意と活力のある学校づくり事業 （市川の学校教育三カ年計画の推進） | 豊かな心を育てるために、読書活動を重視した学校づくりを支援する。 |
| 学校図書館員配置事業 | 学校司書が配置されていない学校に学校図書館員を配置し、学校図書館の充実と図書館を活用した教育の推進を図る。 |
| 読書コミュニティの推進 | 家庭・学校・地域が連携し、読書活動を核としたさまざまな活動を通して、児童生徒の健全育成を図ることができるよう、ネットワーク構築の支援を行う。 |

◇施策の方向1-2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、
活用する力を育成する

○ 重点事業の点検

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | 校内塾・まなびくらぶ事業 |
| 事業概要 | 基礎的・基本的な内容を放課後、長期休業中等において補習を実施することにより、学力の向上を図る。 |
| 計画 (具体的な取り組み) | 学校の実態や参加者のニーズに合わせて、児童生徒が自学自習を行い、プリント学習に取り組む。 |
| 実績 (活動及び効果) | 8月までに全小中学校で開設。2月末までに延べ51,700人が参加した。 「学習したことがわかった、できるようになった」と感じている児童生徒の割合は82.5%であり、学校からの評価も肯定的評価が9割を超えた。 |
| 進捗 | B |

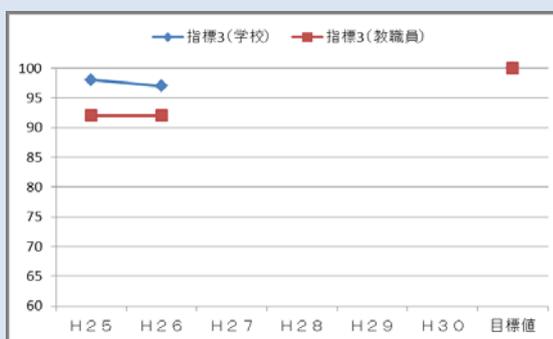
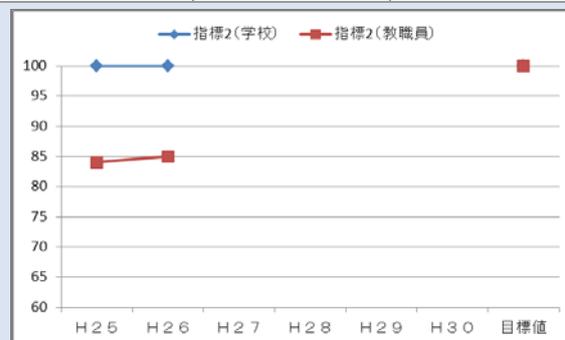
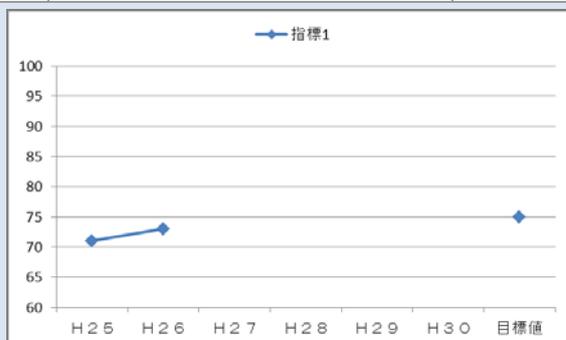
1-2-1 確かな学力を育成する取り組みの推進

基礎的・基本的な内容を確実に習得し、個に応じた学びを充実させるために、指導方法の改善と学習環境の整備に取り組みます。また、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるために、問題解決型の学習をさらに充実します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) | |
|------|--|-----|------|---------|------|
| 1 | 「学校の勉強が楽しい」と回答する児童生徒の割合 | 71% | 73% | 75% | |
| 2 | 問題解決的な学習を重視して、年間を通して、言語活動や体験活動を意欲的に授業に取り入れている学校・教職員の割合 | 学 校 | 100% | 100% | 100% |
| | | 教職員 | 84% | 85% | 100% |
| 3 | 児童生徒の実態に応じ、生徒指導の機能を生かした授業づくりに取り組んでいる学校・教職員の割合 | 学 校 | 98% | 97% | 100% |
| | | 教職員 | 92% | 92% | 100% |



●基本的方向1 子どもの姿●

2. 施策の現状・課題

重点事業（校内塾・まなびくらぶ事業）の進捗がおおむね良く、成果指標もおおむね向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図るとともに、生徒指導の機能を生かした授業づくりを意識づけるため、さまざまな機会を通じて、学校及び教職員への啓発に努める。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|---------------------------------------|--|
| 校内塾・まなびくらぶ事業 | 基礎的・基本的な内容を放課後、長期休業中等において補習を実施することにより、学力の向上を図る。 |
| 創意と活力のある学校づくり事業 （市川の学校教育三ヵ年計画の推進） | 確かな学力を育成するために、問題解決型の学習を重視したり、生徒指導の機能を生かした授業づくりを進めたりする学校づくりを支援する。 |
| 少人数学習等担当補助教員事業 | 小中学校に補助教員を派遣し、少人数指導やチームティーチングなど、わかりやすい授業やきめ細かな指導を充実する。 |
| 学校図書館支援センター事業 | 学校図書館の機能の高度化を図り、学校図書館を活用した学習活動の効果的な指導に関する研究を進める。 |
| 学校環境整備事業 （新しい教材やソフトウェアの導入） | 新しい学校教材などの導入を図り、学校の環境整備を進める。 |
| コンピューター教育振興事業 | 学習支援システムを活用し、児童生徒の学習の充実を図る。 |
| 各種作品展事業 （児童生徒科学展、こども作品展、新聞展） | 児童生徒が学習の成果を発表できる機会を作品展などとして設け、表現力や感性の育成を図る。 |
| 音楽会活動事業 （児童生徒音楽会、地区別音楽会、音楽フェスティバル） | 児童生徒が学習の成果を発表できる機会を音楽会として設け、表現力や感性の育成を図る。 |

◇施策の方向 1-3 健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する

○ 重点事業の点検

| | |
|------------------|---|
| 事業名 | 体力向上推進事業 |
| 事業概要 | <p>児童生徒の体力向上を目指し、運動生活を豊かにすることを基本とした体力づくりを推進し、市川市運動能力証を交付して、体力向上への意欲の向上を図る。</p> <p>また、児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わい、活動欲求に応え、生涯にわたって充実したスポーツライフを実現するために、トップアスリートとの交流や地域の指導者の参画を求め、部活動や部活動に準じるクラブの振興を図る。</p> |
| 計画 (具体的な取り組み) | <p>1 新体カテストの活用 新体カテストの結果を分析し、現在の体力状況についての指導改善を図る。 一定の基準を超えた児童生徒に運動能力証を交付し、体力向上意欲の喚起を図る。</p> <p>2 体育授業の充実 器械運動の達成状況を基に指導の改善を図り、今後の体育指導の充実を図る。</p> <p>3 企業や大学との連携 ラグビー、夢の教室及び水泳指導により企業との交流を深め、体力向上を図る。</p> |
| 実績 (活動及び効果) | <p>1 新体カテストの活用 体育授業の充実及び休み時間等の体力向上に向けた取り組みを進めた結果、県・市ともに運動能力証の交付率が向上した。</p> <p>2 体育授業の充実 器械運動の達成状況を基に指導の改善を図った結果、特にマット運動種目の達成率において5~10ポイント向上した。</p> <p>3 企業や大学との連携 ラグビー、夢の教室、水泳指導等を通して企業との交流を深め、体力向上の啓発に努めることができた。</p> |
| 進捗 | B |

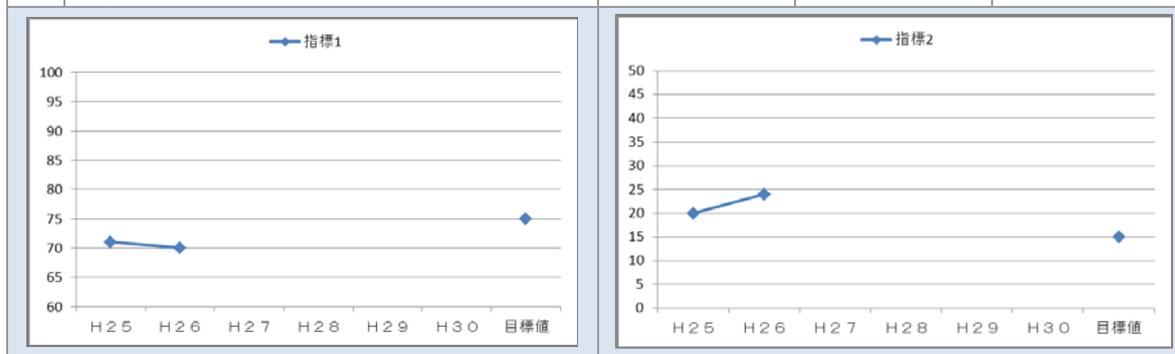
1-3-1 望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進

健全な生活習慣を身に付けるために、検診や調査に基づき、一人一人の実態に応じた指導・支援を行います。また、家庭・学校が一体となって、「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を身に付ける取り組みを推進します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|----------------------------------|-----|-----|---------|
| 1 | 「早寝・早起き・朝ごはんを実践している」と回答する児童生徒の割合 | 71% | 70% | 75% |
| 2 | 小児生活習慣病予防検診の児童生徒の有所見率 | 20% | 24% | 15% |



2. 施策の現状・課題

小児生活習慣病予防検診の児童生徒の有所見率[※]は、降雪の影響を考慮すれば、ほぼ横ばいと考えられる。したがって、成果指標はおおむね横ばいの状況であることから、施策の実現が図られてきている。ただし、健全な生活習慣に関する家庭への啓発が課題である。

※ 有所見率・・・肥満度・腹囲・血圧・血糖・コレステロール・中性脂肪において何らかの所見のある児童生徒の割合

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図るが、健全な生活習慣の習得に向けて、栄養教諭が給食便りに食育に加えて生活習慣の重要性を記載するなど、異なる分野の職員の協力も得ながら、あらゆる機会を利用して、家庭への啓発に努め、家庭との連携を進める。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|-----------------------------|---|
| ヘルシースクール推進事業 (ライフスタイル調査) | 子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため、「体力づくり」、「望ましい生活リズムの確立」及び「食に関する指導の充実」について調査を行い、市全体の傾向を把握し、改善に役立てる。 |
| 小児生活習慣病予防検診 | 児童生徒一人一人に対応した健康指導の充実を図るために、科学的・医学的分析に基づく小児生活習慣病予防検診を行うことにより、生活習慣病の初期段階での予防に取り組む。 |
| すこやか口腔検診 | 児童生徒の口の中をさまざまな角度から調べる検診を通して、そしゃくの実態を把握し、口腔機能の維持・増進を図る。 |

1-3-2 食育の推進

調理実習や農業体験などの体験的な活動を通して、食と健康に関する興味関心を高めます。また、食品の安全性などの知識を習得し、食に関する自己管理能力の育成を推進します。さらに、給食の時間をはじめ、授業や委員会活動などに栄養教諭や栄養職員が積極的にかかわり、「食」に関する指導の全体計画のもと学校教育活動全体で取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣を身に付ける取り組みを進めます。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|------------------------------------|-----|-----|---------|
| 1 | 「給食を楽しんで食べている」と回答する児童生徒の割合 | 90% | 92% | 95% |
| 2 | 「主食、主菜、副菜がそろった食事をしている」と回答する児童生徒の割合 | 87% | 88% | 90% |

2. 施策の現状・課題

成果指標が向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参 考》

| 主たる関連事業 | 事業概要 |
|----------------------------------|--|
| ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・食育) | 子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため、各学校が自校の実態に応じた食に関する指導の充実に家庭・地域との連携を図りながら取り組む。 |
| 学校給食運営事業 | 食に関する指導と学校給食の管理をより一体的なものにしていくために、給食の食器具や施設設備の充実を図る。 また、市川市立学校給食検討委員会などにおいて、広く意見聴取することで、食育や学校給食運営の改善を図る。 |
| 教職員研修事業 (栄養教諭・学校栄養職員研修会) | 学校において、食と健康に関する指導の中心的役割を担う給食主任及び栄養教諭・学校栄養職員の合同研修会を開催し、それらの職員を中心とした校内の研修体制の充実を図る。 |

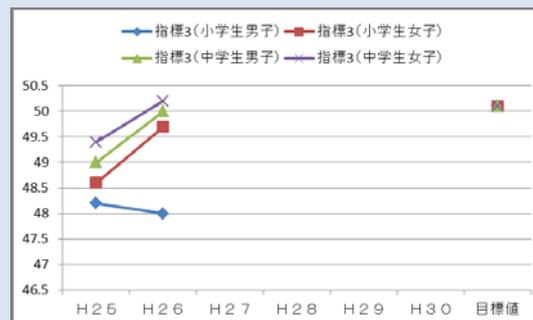
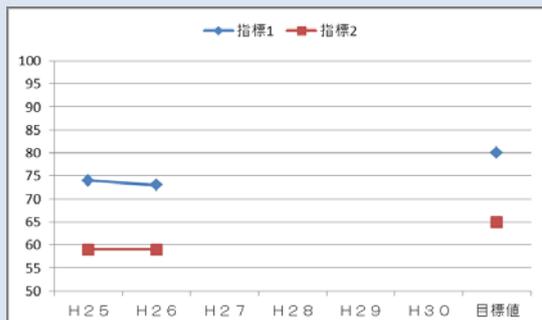
1-3-3 体力向上の取り組みの推進

子どもの体力向上を図るため、運動量が十分確保された体育の授業を実施し、休み時間には外遊びができる環境づくりに取り組みます。また、運動部活動の充実を図るとともに、地域のスポーツ指導者などと連携し、子どもが積極的に運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | | H25 | H26 | 目標(H30) | |
|------|---------------------------------|-----|-----|-------|---------|-------|
| 1 | 「運動が好き」と回答する児童生徒の割合 | | 74% | 73% | 80% | |
| 2 | 「休み時間や昼休みに外遊びをしている」と回答する児童生徒の割合 | | 59% | 59% | 65% | |
| 3 | 新体力テストの得点平均 | 小学生 | 男子 | 48.2点 | 48.0点 | 50.1点 |
| | | | 女子 | 48.6点 | 49.7点 | 50.1点 |
| | | 中学生 | 男子 | 49.0点 | 50.0点 | 50.1点 |
| | | | 女子 | 49.4点 | 50.2点 | 50.1点 |



2. 施策の現状・課題

重点事業（体力向上推進事業）の進捗がおおむね良く、成果指標もおおむね向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参 考》

| 主たる関連事業 | 事業概要 |
|-------------------------------------|--|
| 体力向上推進事業 | <p>児童生徒の体力向上を目指し、運動生活を豊かにすることを基本とした体力づくりを推進し、市川市運動能力証を交付して、体力向上への意欲の向上を図る。</p> <p>また、児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わい、活動欲求に応え、生涯にわたって充実したスポーツライフを実現するために、トップアスリートとの交流や地域の指導者の参画を求め、部活動や部活動に準じるクラブの振興を図る。</p> |
| ヘルシースクール推進事業 (新体力テスト) | <p>子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図ることができるようにするため、新体力テストの結果を分析することにより、各学校が子どもたちの体力の現状を把握するとともに、体力づくりに向けた取り組み結果の検証に役立てる。</p> |
| ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・体力づくり) | <p>子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため、「体力づくり」に関わる内容として、場所と時間の確保や具体的な取り組み内容を計画するとともに、数値目標を掲げることで運動やスポーツに親しむ機会の充実に取り組む。</p> |
| 幼小中学校営繕事業 (幼小中学校の遊具の整備) | <p>安全・安心な環境を確保する施設整備を行う。</p> |

◇施策の方向1-4 社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む

○ 重点事業の点検

| | |
|------------------|---|
| 事業名 | コンピューター教育振興事業 |
| 事業概要 | インターネットの利用など、さまざまな学習場面でICT機器の利用が図られるよう、啓発に努める。 |
| 計画 (具体的な取り組み) | ICT機器を利用した「わかる授業」のための研修(夏季研修や出前研修)の充実を図る。 |
| 実績 (活動及び効果) | 学校種別や経験年数別の教員を対象にICT機器や学習支援システムの活用方法について、研修会を実施した。 その結果、授業においてICT機器を活用した「わかる授業」の推進を図ることができた。 |
| 進捗 | A |

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | 防災教育の日 |
| 事業概要 | 東日本大震災の教訓を生かすため、3月11日を「防災教育の日」とし、防災意識を高めるための教育を推進する。 |
| 計画 (具体的な取り組み) | 教育長メッセージを各園・各校に送付し、半旗の掲揚・黙祷、校長訓話、指導課の指導例を参考にした各園・各校独自の安全指導及び防災教育の日を意識した給食・弁当を実施する。 |
| 実績 (活動及び効果) | 3月11日を風化させず教訓として語り継ぐことで防災意識を高めることができると、多くの学校から回答を得ている。 実施率は100%であり、学校ごとに工夫を凝らした取り組みが増えている。卒業式が近く、日程的に厳しいという意見はほぼなくなっていることにも現れている。 |
| 進捗 | B |

1-4-1 環境学習の充実

環境についての理解を深め、自らの生活の中で環境を大切にする姿勢が身に付くよう、体験的な環境学習の充実を図ります。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|--------------------------------|-----|-----|---------|
| 1 | 「環境のことを考えた行動をしている」と回答する児童生徒の割合 | 77% | 78% | 80% |

| 年度 | 割合 (%) |
|---------|--------|
| H25 | 77% |
| H26 | 78% |
| 目標(H30) | 80% |

2. 施策の現状・課題

成果指標が向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図るが、終了した学校版環境ISO認定事業については、その成果を生かした取り組みを継続し、児童生徒の環境への意識の高揚に努める。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|-------------------------|---|
| 学校版環境ISO認定事業 環境学習の推進 | 毎年、学校の環境保全、省エネ省資源活動を推進する学校を数校指定して、各学校が「特色ある実行プログラム」を設定し、主体的に活動に取り組めるよう支援する。 |

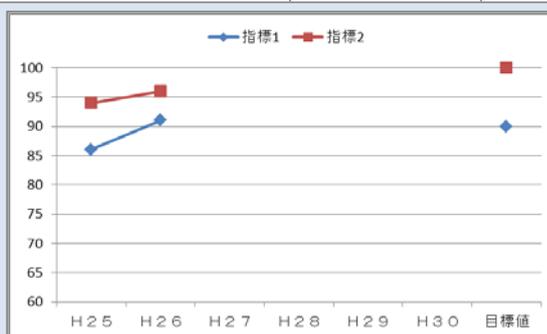
1-4-2 情報教育の推進

多様な情報手段の特性を理解し、情報を適切に活用できる能力を育成するために、発達段階に応じた情報教育を推進します。また、情報発信に伴う責任や情報を判断する力を子どもに身に付けさせるため、情報モラルに関する教育を推進します。さらに、学習においては、子どもが意欲的に取り組めるようICT機器を積極的に活用し、学習効果を高めます。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|---|-----|-----|---------|
| 1 | 「パソコン、書画カメラ、プロジェクターなどを用いた授業や学習はやる気ができる」と回答する児童生徒の割合 | 86% | 91% | 90% |
| 2 | 「パソコンや携帯電話などの安全な使い方がわかり、自分を守り、他人に迷惑を掛けないように気を付けている」と回答する児童生徒の割合 | 94% | 96% | 100% |



2. 施策の現状・課題

重点事業（コンピューター教育振興事業）の進捗が良く、成果指標も向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|-------------------------------|--|
| コンピューター教育振興事業 | インターネットの利用など、さまざまな学習場面でICT機器の利用が図られるよう、啓発に努める。 |
| 学校情報化研究事業 (情報モラルに関わる研修の充実) | 教職員を対象に、児童生徒が情報や情報手段を適切に活用できるよう、情報モラル教育を推進する。 |

1-4-3 キャリア教育の推進

子ども一人一人が、社会的・職業的に自立するために必要となる基礎的な能力や態度を教育活動全体を通じて育成します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|---------------------------------------|-----|-----|---------|
| 1 | 「将来、自分になりたい職業や、やりたい仕事がある」と回答する児童生徒の割合 | 80% | 79% | 85% |

| 年度 | 割合 (%) |
|----------|--------|
| H25 | 80 |
| H26 | 79 |
| H30 (目標) | 85 |

2. 施策の現状・課題

成果指標が低下していることから、施策の実現が図られてきているとはいえない。
 中学校における職場体験は、全ての生徒が具体的にやりたい仕事を自覚するための体験の場となっていないことが課題である。

3. 対応

小中高の連携を図り、発達段階に応じた指導の充実を図るとともに、中学校における職場体験については、学校支援コーディネーターとの連携などにより、生徒が希望する職業の受入企業の開発に努める。

《参考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|--------------------------------------|--|
| 創意と活力のある学校づくり事業 (市川の学校教育三ヵ年計画の推進) | 望ましい勤労観、職業観等を育てるために、キャリア教育を重視した学校づくりを支援する。 |

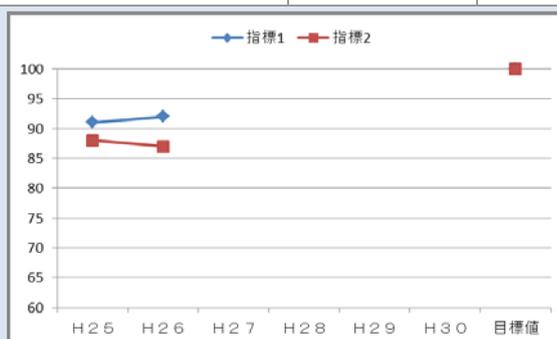
1-4-4 防災教育の推進

東日本大震災の教訓を生かし、防災意識の高揚を図ります。また、災害時における避難行動などに必要となる適切な判断力・対応力を育成します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標 (H30) |
|------|--|-----|-----|----------|
| 1 | 「災害発生時に、自分の命を守るためにどのような行動をとれば良いか知っている」と回答する児童生徒の割合 | 91% | 92% | 100% |
| 2 | 「災害発生時に、自分の身の回りでどのような場所が危ないか知っている」と回答する児童生徒の割合 | 88% | 87% | 100% |



2. 施策の現状・課題

重点事業（防災教育の日）の進捗はおおむね良く、成果指標もおおむね横ばいであるが、すべての児童生徒が災害時における避難行動などを身に付けている必要があることから、施策の実現が図られてきているとはいえない。

災害時における避難行動などに必要となる適切な判断力・対応力の育成が課題である。

3. 対応

塩浜学園における教育課程特例の「塩浜ふるさと防災科」*の成果を各校に広めるように努める。

※塩浜ふるさと防災科・・・教育課程特例校の指定を受けて新設した教科。「地域への理解と愛着」、「人間としての生き方」、「防災リテラシー」及び「科学的理解」の4つの視点に沿って推進し、豊かな心とたくましく生きる力を育む。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|---|--|
| 防災教育の日 | 東日本大震災の教訓を生かすため、3月11日を「防災教育の日」とし、防災意識を高めるための教育を推進する。 |
| 安全・安心な学校づくりの推進 (セーフティスクールプランの作成 及び活用) | 児童生徒の「生活安全」、「交通安全」及び「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、学校安全の取り組みを計画的に推進する。 |
| 安全・安心な学校づくりの推進 (安全主任研修会) | 児童生徒の「生活安全」、「交通安全」及び「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、研修会を実施し、効果的で系統的な安全教育を推進する。 |

◇施策の方向 1-5 日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際社会の中で生きる力を育む

○ 重点事業の点検

| | |
|------------------|--|
| 事業名 | 教育普及事業 |
| 事業概要 | 郷土の歴史や民俗・文化に対する認識を深めるため、考古博物館などと連携して、教職員向けの研修会を実施する。 小学校の初任者研修（体験活動）などへ協力する。 |
| 計画 （具体的な取り組み） | 考古・歴史博物館及び自然博物館と連携し、夏季休業中に、2年目と3年目の教員を対象とした研修会を実施する。 |
| 実績 （活動及び効果） | 考古・歴史博物館及び自然博物館と連携して、夏季休業中に、2年目と3年目の小学校教員を対象とした研修会を実施した。 実施後のアンケートでは、この研修会は「必要がある」・「学んだ内容を活用したい」ともに98%を上回る結果となった。 |
| 進捗 | B |

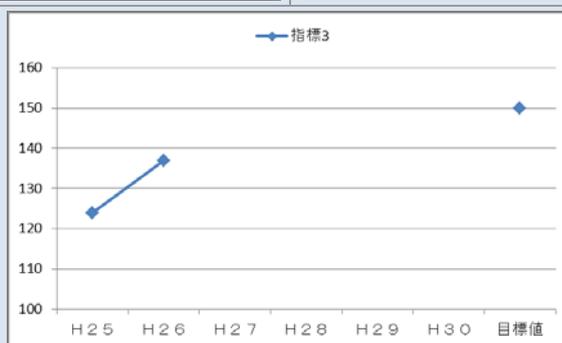
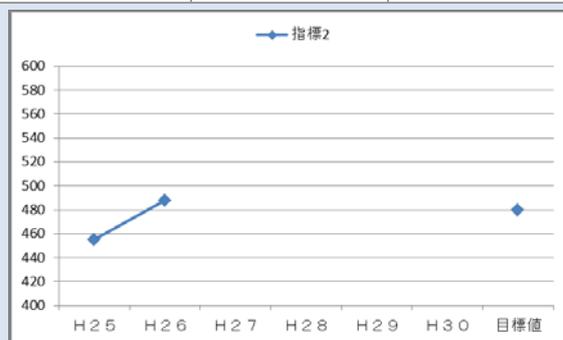
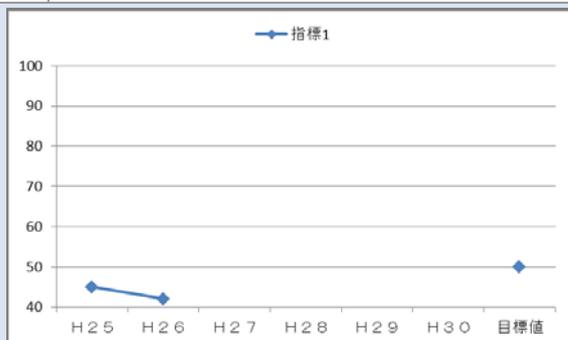
1-5-1 歴史や文化に関する教育の推進

郷土を愛する心と豊かな情緒を培うために、学校、博物館、地域団体などと連携して、日本や郷土市川の歴史や文化を深く理解する機会を充実します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | | H25 | H26 | 目標(H30) |
|------|-------------------------------|------|------|---------|
| 1 | 「市川市の歴史や文化に関心がある」と回答する児童生徒の割合 | 45% | 42% | 50% |
| 2 | 教職員対象の研修会の参加人数 | 455人 | 488人 | 480人 |
| 3 | 学校が、博物館の出前授業・体験活動を利用した回数 | 124回 | 137回 | 150回 |



2. 施策の現状・課題

重点事業（教育普及事業）の進捗はおおむね良いが、児童生徒に係る成果指標が低下していることから、施策の実現は図られてきているとはいえない。
児童生徒の地域への関心の低さが課題である。

3. 対応

児童生徒の地域への関心を高めるため、地域教材に直接触れるなどの体験学習の充実に努める。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参 考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|----------------------------------|---|
| 教育普及事業 | 郷土の歴史や民俗・文化に対する認識を深めるため、考古博物館などと連携して、教職員向けの研修会を実施する。 |
| 社会科副読本等製作事業 | 教員による郷土に関わる研究会議を開催し、社会科副読本の製作及び学習指導のあり方の研究を行う。 |
| 部活動等地域指導者協力事業 | 児童生徒の吹奏楽や茶道などへの活動欲求に応えるために、地域の指導者の参画を求め、部活動の振興を図る。 |
| 教職員等研修事業 （「美しい日本語の使い手を育てる」研修） | 教職員を対象に研修会を実施し、子どもを取り巻く言語環境の重要性を意識づけ、言語感覚を磨くきっかけをつくる。 |

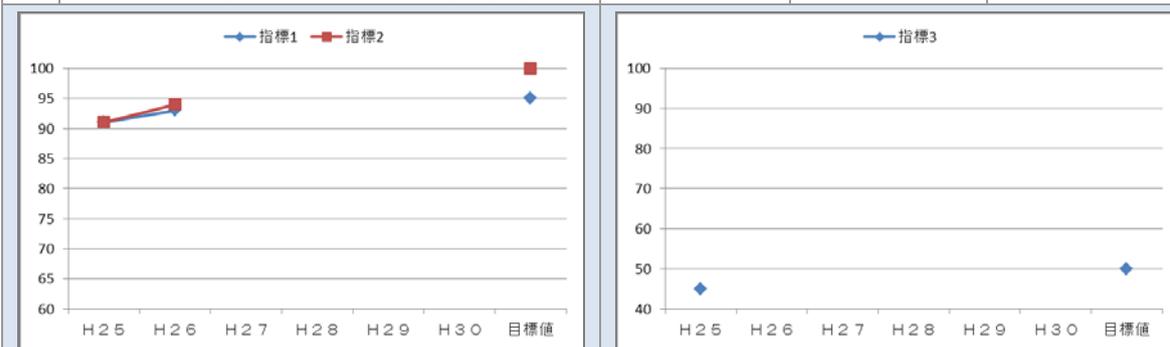
1-5-2 外国語教育・国際理解教育の推進

外国語への興味・関心を高め、外国語を活用したコミュニケーション能力を育成するために、小学校では英語活動などを推進し、中学校では英語の能力の向上を目指します。また、小中学校で連続した指導が行われるよう、連携を強化し、指導内容の充実と体系化を図ります。さらに、異なる文化をもつ人々と理解し合い、協調していく力を育成するために、外国の歴史・文化・生活習慣を学ぶ機会を充実します。

○ 施策の評価

1. 成果指標

| 成果指標 | H25 | H26 | 目標(H30) |
|--|-----|-----|---------|
| 1 「外国語活動の授業が楽しい」と回答する児童 <小学校5・6年生>の割合 | 91% | 93% | 95% |
| 2 「英語の授業が楽しい」と回答する生徒 <中学校1・2年生>の割合 | 91% | 94% | 100% |
| 3 英検（実用英語技能検定）3級ないしは英検3級と同等の力を有する生徒の割合 | 45% | - | 50% |



2. 施策の現状・課題

成果指標が向上していることから、施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って施策の推進を図る。

《参考》

| 主な関連事業 | 事業概要 |
|----------------------------------|--|
| 小学校外国語活動推進事業 (小学校外国語活動指導員の派遣) | 英語能力を有する外国語活動指導員を小学校に派遣し、外国語活動の推進を図る。 |
| 外国語指導助手派遣事業 | 英語を母国語とした外国語指導助手を各中学校に派遣し、英語学習に対する意欲及びコミュニケーション能力の向上、国際感覚の育成を図る。 |
| 中学生海外派遣事業(派遣・受入事業) | 市立中学校の生徒をドイツのパートナーシティ・ローゼンハイム市へ派遣するとともに、ドイツからも生徒を受け入れ、国際感覚豊かな青少年を育成する。 |